

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700383
法人名	医療法人社団みのり会
事業所名	グループホームまほろば
所在地	愛媛県西予市三瓶町朝立2-1-7
自己評価作成日	平成27年10月

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>優しさと思い遣りの心で、入居者が笑顔で過ごせる関わりを大切にしています。日々の関わりを通して、入居者の想いを受け止め、一人ひとりがその人らしい生活ができるよう支援します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>気候のよい時期には、頻繁に散歩に出かけており、近所の方がよく声をかけてくれる。近所の児童館で毎週木曜日に駄菓子屋が開かれ、利用者も時々、お菓子を買に行く。日々の利用者との会話の中で季節に応じたお花の話題等も挙がり、出かけるきっかけになっている。近くの文化会館に図書を借りに行かれる方もある。</p> <p>利用者、職員ともに地元の方が多く、もともと顔見知りの方もいる。併設デイサービスの利用者の中には、近所の方や知り合いもいるため、体操等を一緒にできるようお願いしている。</p> <p>年1回、運営推進会議と家族会を併せて行い、意見交換してお互いの気付きを出してもらう機会を作っている。職員の入れ替わりが少ないため、利用者ご家族との関係は深まっている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームまほろば

(ユニット名) 西ユニット

記入者(管理者)
氏名 菊池 文孝

評価完了日 平成 27 年 10 月 20 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 運営方針を新たに掲げ、職員へ説明会を開催し意識統一を図った。利用者がその人らしい生活が続けていけるよう、個々に合わせたケアの実現に向け努力している。	
			(外部評価) 法人理念「地域の保健・医療・福祉に貢献するため、役職員一同が一丸となって、知識・技術の向上に努める」のもと、事業所の運営方針を7項目掲げている。事業所の年間目標、職員個々にも年間目標を立てて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園や小学校との交流会や、各種ボランティアの訪問を通じて地域との繋がりを大切にしている。また、散歩や商店への買い物などで地域に出向いて交流を図っている。	
			(外部評価) 建物内の運動施設やデイサービス利用者との交流や保育園児の訪問、小学生の社会見学や高校生の介護一日体験の受け入れを行っている。町の文化祭に出展した利用者の編み物作品を見に出かけた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民生委員の視察時や高校生の実習。また運営会議等で、認知症についての理解や支援の方法について勉強会を開催している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方やご家族、入居者の参加を得て活動報告や意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市担当者からのアドバイスもあり、会議メンバーを固定し、2年任期と決めている。メンバー交代の時期には、認知症についての研修と会議開催についての説明している。会議時には、事業所側から指名等して、意見を出してもらおうよう取り組んでいる。</p>	<p>グループホームの特徴をさらに知ってもらえるような会議の工夫や、意見等を引き出せるような工夫を重ねてほしい。又、会議を活かして地域との関係をさらに深めていってほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>会議以外にも訪問や電話などで相談し、助言を求めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市の担当者は、運営推進会議に参加しており、取組みについて助言等がある。管理者は、市の担当者に地域に向けて「認知症介護教室を開催したい」と提案したが、予算や計画のこともあり、すぐには難しいとの返答であった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>施設内研修を行い身体拘束に職員が正しく理解し、利用者がのびのびと生活できるように支援している。また、やむおえない場合については家族に説明し同意を頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニットの出入り口には鈴を付けており、人の出入りが職員に分かるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 優しさと思い遣りもって接することを、常々伝えている。また、身体だけではなく、言葉による虐待についても、施設内研修を通じて学んでいる。日々においては、職員間で気付き合えるよう意識している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設内研修の中で、人権擁護に関する学習を行い、大切さを伝えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には利用者ご家族に重要事項等の説明を行い契約内容の理解を図っている。また質問や不安な点も聞くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見箱の設置と相談受付体制をとっており、ご家族、利用者からの意見をいただけるようにしている。また、面会時には積極的にコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気を作っている。 (外部評価) 毎月、暮らしの様子を書いた手紙と、行事の写真を載せた便りをご家族に送付している。年1回、運営推進会議と家族会を併せて行い、意見交換してお互いの気付きを出してもらう機会を作っている。職員の入れ替わりが少ないため、利用者ご家族の関係は深まっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に1回のカンファレンスを通じて、職員からの意見を聞き、検討しサービスの質の向上に繋がっている。また、日頃から意見は出しやすい環境は作れているように思う。	
			(外部評価)	
			月1回のカンファレンス時には、職員から「レベルが落ちてきた利用者を地元に戻らせてあげたい」と提案があり、ユニット全員で利用者の地元に出かけられるよう支援した事例がある。利用者の方は、知人と会うこともできて懐かしい時間を過ごされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			人事評価を行っており、個々の努力や実績について評価している。フィードバック面接を通じて意欲がもてるような働きかけと、振り返り考える習慣をつけている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部研修に積極的に参加している。また、新人職員に対しては課業チェック(OJT)を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている		
			法人内で連携し研修会を行っている。また適時、管理者同士で相談できる環境ができています。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			優しさ、思い遣りを持って接するようにしている。また、関わりを多く持つことで、入居者の安心に繋がるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の説明や見学の際には、家族が抱えている不安や要望等を問いかけ、質問や要望にこたえられるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族が必要としている支援を一緒に考えニーズに合ったサービスが利用できるように対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 毎日の生活の中で出来ることはしていただき、出来ないところを支援できるよう努めている。散歩にでかけたり、楽しみを持っていただけるよう努力している。また、関わりを多く持つことで、想いを十分に聞くようにしている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族とは連絡を取り合い、入居者の想いや要望を伝え協力を得ている。家族会などで家族からの要望も聞くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人には、地域で会った時に、遊びに来ていただくような声掛けをしている。また、地元の地区に出かけるなどの支援をしている。 (外部評価) 利用者、職員ともに地元の方が多く、もともと顔見知りの方もいる。併設デイサービスの利用者の中には、近所の方や知り合いもいるため、体操等を一緒にできるようお連れしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格や認知症状を把握し、利用者同士のトラブルなどないようお互いに関わりをもちやすい環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院をされたり、他施設へ移られた時でも面会に行き、繋がりを持てるようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、一人ひとりの想いを受け止められるよう努力している。また、意思疎通が困難な場合には、声かけに対する表情や態度などから想いをくみ取れるよう努力している。	
			(外部評価) 入居時には、ご本人、ご家族、又、ケアマネジャー等に、これまでの生活歴や状況を聞き取っている。利用者から意見や不満等を聞いた時には、内容を申し送りノートに記入して職員で共有している。	利用者がその人らしい暮らしを続けることができるように、意思表示が難しいような方についても、情報収集に努めてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や本人から聞き取りを行い、生活歴や趣味等の情報が把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテ、申し送り、連絡表を活用し、全職員が把握できるようにしている。また、関わりを通して生活の中での希望などが聞けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画の作成時には、本人やご家族の意向も伺い、意向を取り入れた、介護計画を作成するようにしている。	
			(外部評価)	
			介護計画は、毎月のカンファレンス時にモニタリングを行い、半年ごとに見直しており、状態変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別の経過記録に日々の様子や変化を記録している。また受診記録も個別で記録し、情報共有ができるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			個別の状態、ニーズに応じたサービスの提供支援ができるように職員間でその都度、意見交換し入居者にとって良いサービスが提供できるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の行事に参加したり、保育園や小学校との交流会等で地域との繋がりがもてるようにしている。また各種ボランティア訪問で楽しみがもてるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、ご家族の希望があれば、希望の医療機関に受診も出来るようにしている。また、隣設の病院と連携しており、休日や夜間でも相談や診察してもらえる体制になっている。	
			(外部評価) 夜間や緊急時には、隣接する母体医療機関に連絡すると看護師が駆けつけてくれて状況判断し、医師に報告してくれるようになっている。町外の病院を受診する際には、ご家族が付き添うが、ご家族の都合によっては管理者が同行し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携している訪問看護ステーションと連携し、体調不良等には相談ができる体制をとっている。また併設の病院とも連携がとれるようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 併設の医療機関と連携しており入院した際には、状態などについて情報交換や相談ができる体制をとっている。また定期の受診や状態に変化があった場合は医師に相談できる体制をとっている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族と相談し希望にそえるように努めている。また医師との連携し医療面での支援も行っている。	
			(外部評価) 法人全体でターミナルについての研修を実施しており、職員も受講している。利用者との会話の中から「最期までここで暮らしたい」等と希望を聞くこともあるが、終末期には、ご家族、利用者ともに、病院への入院を希望することが多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルの作成や法人内の勉強会などへ参加し急変時の対応などについて勉強をしている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、定期的に夜間を想定した避難訓練を実施している。実際の夜間勤務者2名のみでの訓練を行っている。職員全員が訓練できるよう計画している。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て夜間想定で避難訓練を実施しており、全職員が体験できるよう取り組んでいる。利用者役を体験した職員は、声を掛け合うことの大切さを感じていた。津波発生時には、隣接する病院の4階を避難場所にしており備蓄もある。地区には防災組織があるが、現在は、事業所がかかわるようなことは少ない。今後さらに地域との協力体制作りに向けて、具体的に取り組みをすすめてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 優しさ、思い遣りの心を大切に接している。また、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
			(外部評価) 利用者の居室にいきなり入ることのないよう、職員は利用者に声をかけてから開けるように気を付けている。トイレ使用时には、外で待ち、タイミングをみながら声を掛けて対応している。訪問調査時、耳の聞こえにくい利用者も番組を楽しめるよう、字幕入りにしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々のコミュニケーションを大切に、利用者の思いや希望を聞き取ったり、くみとれるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースに合わせて、できることをその方のペースでしていただけるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の好みを把握し、一緒に洋服を選んでいただくなどし、その人らしさを尊重するようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じ、食事形態や味付けを工夫している。また入居者と一緒に準備や後片付けなど、出来ることは一緒に行っていたりしている。	
			(外部評価) 朝・昼食は業者から食材が届き、事業所で調理している。夕食は、病院の厨房で作った食事が届くようになっている。調査訪問時には、ご自分のお膳を下げて流しで食器を洗っている利用者が複数いた。職員は、介助に徹しており、飲み込みが悪い利用者の様子を見て、夕食から少し刻んでみることを話し合っていた。職員は、順番に別の場所で持参したお弁当を食べて休憩を取っている。	食事を楽しむという観点から、職員のかかわり方に工夫できることはないか話し合ってみてほしい。利用者のリクエストや好み、懐かしいようなメニュー等も楽しめるよう工夫してはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 状態に応じ、形態をかえたり、食事の際は一人一人のペースに合わせた声かけを行っている。またお茶の時間をとったり、希望に応じて水分補給を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っていただいている。また、利用者の状態に応じスタッフが口腔をチェックして一部介助したり、舌の掃除を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄パターンを把握し声かけを行い、トイレでの自立した排泄ができるように支援している。また、拒否される方に対しては、声掛けを工夫し気持ちよく応じてもらえるように努めている。	
			(外部評価) 職員が介助することを嫌がる利用者やトイレに行きたがらない利用者には、思い出の写真を一緒に見る等しながら誘導するきっかけを作り、トイレに行けるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) デイサービスの運動に参加したり、日常生活の中での運動量を増やしたりしている。また、身体機能が低下されている方には、医師と連携し内服薬の調整も行っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々にあわせ、順番や時間をずらしたり体調をみながら入浴支援を行っている。希望によっては夕食後も入浴できるような体制を整えている。	
			(外部評価) 東と西ユニットの間に浴室が2つ設置されており、その内一つはリフト浴もできる特殊浴槽になっている。それぞれのユニットが交代で使用して、利用者は週3回入浴できるよう支援している。以前は夜間入浴希望者があり、人員を配置して支援していたが、最近希望者がいないため昼間の入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて、安眠できるように工夫している。入眠までに帰宅要求がある方には、その時間帯にいろいろなお手伝いをさせていただいたりしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋や受診記録などを共有して、どのような薬を飲んでいるかを把握し、症状の変化などの確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせて、日常生活の中で役割がもてるよう支援している。得意なことを通して楽しみや生きがいを見つけていただけるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スタッフの人数により、希望にそえない時もあるが、利用者の希望に応じ、外出できるようにしている。家族の方にも協力していただき外出支援をしている。	
			(外部評価) 気候のよい時期には、頻繁に散歩に出かけており、近所の方がよく声をかけてくれる。近所の児童館で毎週木曜日に駄菓子屋が開かれ、利用者も時々、お菓子を買いに行く。日々の利用者との会話の中で季節に応じたお花の話題等も挙がり、出かけるきっかけになっている。近くの文化会館に図書を借りに行かれる方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) おこづかいを持たれている方もおられる。個々にあわせて管理、支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に応じて連絡がとれるよう支援している。携帯電話を持たれている方もおられ、遠方におられる息子さんから、ほぼ毎日電話がある	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに飾りを変えるなど、利用者が四季を感じられるよう工夫している。また、不快感を与えないよう生理整頓にも気をつけている。	
			(外部評価) アイランド型台所で、利用者が食事作りにかかわりやすい造りになっている。テレビの前にはソファが配置されており、昼食後にはソファに座って洗濯物をたたんだりコタツカバーを編んでいる利用者の様子もみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビ前のソファでゆっくりされたり、気の合う入居者同士でお話ができるよう配慮している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の好まれるものを、持って来て頂き、居室でも一人でゆっくりしていただけるよう配慮している。	
			(外部評価) 居室にはそれぞれに名前を記しており、自室が分かりにくい方には大きく表示してあった。各居室には、ダンスや転倒防止のため低めのベッドが設置されている。テレビや三段ボックス、籐の飾り棚を持ち込んでいたり、写真や手作り品等が飾ってあった。利用者の中には冷蔵庫や携帯電話を使用する方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 整理整頓を心がけ、安全に生活できるよう努めている。手摺や幅広トイレ、自室からトイレまでの案内表示等を工夫し、自立した生活ができるよう支援している。	
			(外部評価)	